



第4章

開通まで

- 道路にふれあうイベント
- 開通プレイベント
- 開通

道路にふれあうイベント

山側環状では、開通前より周辺の地域の方々を中心に幅広い世代の方々を招いて、道路をより身近に感じてもらうための現場見学会や記念イベントが開催されました。

現場見学会

梅田～金沢森本IC親子見学会

平成15年9月27日、10月18日、11月1日

- 平成16年3月に開通を控えた梅田～金沢森本IC間で、親子連れを対象に3回にわたって見学会が開催されました。
- 見学会には、のべ199人の親子連れが参加しました。



▲現場見学会の様子

梅田～金沢森本IC見学会

平成15年11月21日

- 金沢市立森本小学校の4年生児童101人を対象に見学会が開催されました。
- 森本地域のまちづくりについて学んでいる森本小学校の児童を対象に、総合学習教育支援の一環として開催されました。



▲現場見学会の様子

※写真：金沢河川国道事務所

開通記念 サッカー交流試合

- 山側環状の一部であり、卯辰山を縦断する金沢東部環状道路は、平成14年から順次、開通していきました。開通により、卯辰山を隔てた地区が結ばれ、小中学生を中心に沿線のスポーツ活動の活性化が期待されました。

- 部分開通の際には、開通を記念して沿線地域の少年サッカーチームによる交流試合が開催されました。



▲卯辰トンネル開通記念サッカー交流試合
(平成15年3月15日開催)



▲金沢東部環状道路開通記念サッカー交流試合
(平成16年3月27日開催)

※写真：金沢河川国道事務所

開通イベント

部分開通時や全線開通時には、地域の方々を交えた様々な記念イベントが開催されました。

クリスマスイベント



▲とうかんクリスマスライブ in 月浦トンネル

■平成 15 年 12 月には、翌年 3 月に開通を控えた森本トンネルで見学会を兼ねて、約 300 人の家族連れを招いてファミリーコンサートが開催されました。

■平成 17 年 12 月のクリスマスには、月浦トンネルで約 650 人の親子連れを招いて、ハンドベルコンサートなどの催しが披露されました。



▲森本トンネル・クリスマスファミリーコンサート



▲森本トンネル・クリスマスファミリーコンサート

※写真：金沢河川国道事務所

開通イベント

梅田～金沢森本IC間 開通時のイベント



▲ウォークイベントの様子

■平成16年3月13日には、一週間後に開通を控えた梅田～金沢森本IC間で、「人文字&ウォーク」と題してイベントを開催しました。



▲地域の方々による記念植樹



▲地域の方々による記念植樹



▲イベント参加者による人文字

※写真：金沢河川国道事務所

プレミアムウェディング in 月浦 (平成18年3月19日開催)

- 全線開通のカウントダウンイベントとして、開通前の月浦トンネル内で金沢市在住のカップルの結婚式を開催しました。
- トンネルをチャペルに見立てた特設会場は、厳かな雰囲気にもまれ、親族・関係者のほか一般参加者も列席して新郎新婦の門出を祝福しました。
- 新郎・新婦には記念品として、安産のお守りと言われるトンネルの貫通石や式の模様を撮影したDVDが贈呈されました。



▲月浦トンネル内での挙式の様子



▲オープンカーで披露宴会場へ



結婚式を挙げられた山崎さんご夫婦 (康志さん、加奈子さん、紫苑ちゃん)

トンネルの中での結婚式を挙げられて、 周囲の反応はいかがでしたか？

当時は「トンネル？すごいね」といった驚いた反応が多かったです。挙式後はもちろん今でも「テレビで見たよ」と話題になることがあります。

日頃、山側環状をご利用ですか？ お二人にとってはどのような道路ですか？

仕事や帰郷する際に通ります。月浦トンネルを通るたびに、当時のことを思い出しますし、子供にも話しています。

結婚式を挙げた道路という思い出もありますが、整備により移動時間が短くなり、実家などに滞在できる時間が長くなりました。人と人を繋ぐという役割を果たしてくれていると思います。

プレミアムウェディングに応募した理由や当時の思い出は？

結婚式を挙げる予定はありませんでしたが、親族が集まるきっかけになればと思い応募しました。

当日は、一般の方も多く参列していただき、お花やお手紙をいただくなど、とても驚きました。

挙式後のパレードの際にも沿道の方々に祝福の言葉を頂いた記憶があります。担当者の方が、とてもこだわってくださって、本当に結婚式を挙げてよかったと思います。

※写真：金沢河川国道事務所

開通イベント

全線開通時のイベント



▲山環ウォークラリーの様子



▲ウォークラリーのチェックポイント

- 全線開通直前の平成18年4月9日には、田上第五、田上本町、大桑第三、野田の各土地区画整理組合で構成される実行委員会による「山環にぎわいフェスタ」が開催されました。
- 当日は、約12,000人が参加し、崎浦涌波トンネル内で工事中のビデオ上映や写真展示などを行ったほか、楽器の演奏や演舞など様々な催しが行われました。
- 山環にぎわいフェスタと同時に、神谷内～窪間の約12kmの区間で国土交通省による「山側環状ウォークラリー」が開催され、約1,500人が参加しました。



▲演舞の披露



▲開通前の道路を自由に散歩



▲工事写真の展示



▲様々な催しを実施



▲崎浦涌波トンネル内でのパネル展示



▲多数の参加者で賑わう会場

おわりに



国土交通省 金沢河川国道事務所
事務所長 富山英範氏

金沢の環状道路構想は昭和45年の「60万都市構想」にその原型を見るという。当時は、全国でモータリゼーションに対応する国道バイパスや高速道路整備が盛んに行われていた時期だ。

環状道路の必要性は早くから認識されていたものと考えられるが、やはり国土を縦横にはする幹線道路網整備が先行し、全国的に環状道路整備が盛んになるのは年号が平成に変わる頃からだった。平成4年からの第11次道路整備五箇年計画では、都市の骨格を形成し、中心市街地への分散導入やバイパス効果で道路ネットワークの効率を高める都市環状道路の重要性が強く認識され、多くの都市で地域高規格道路の位置づけを得て環状道路計画が具体化されていった。

「非震災都市」金沢は、中心市街地での道路拡張がままならず、環状道路整備の必要性が特に高い都市圏のひとつといえる。開通から10年を経た山側環状は、北陸自動車道や国道8号とともに、市民生活や産業活動に欠くべからざる幹線道路となっている。

公共事業の「ストック効果」が殊更にアピールされてきたのはここ数年のことだが、山側環状は開通直後から、渋滞を緩和し、中心市

街地の環境を改善し、郊外の都市開発を支え、能登と白山麓を結びつけ、大きな効果を発揮している。これからも50年、100年にわたって膨大な恩恵を市民、県民、その他の道路利用者にもたらしていこう。

都市部での幹線道路整備は常に大事業である。山側環状も、最初の工事着手から全線開通までに実に35年を要している。その間、無数の行政職員や民間技術者たちの努力があり、そして地元の熱意や地権者をはじめとする沿道の皆様のご協力があったことを忘れてはならない。しかし、10年を経れば、道路はそこにあるのが当たり前の、空気のような存在となるのが常である。機会を捉えて、事業の詳細な経緯、開通後の状況、興味深いエピソードなどを記念誌としてまとめ、後の世代に残すことは意義深いと考え、本誌が編纂された。

山側環状という歴史に残る大事業に尽力された先輩諸氏に対して、心からの感謝と敬意を表すとともに、今後とも、金沢東部環状道路の4車線化や海側幹線の整備など、国・県・市が一体となって金沢都市圏の交通環境改善に向けた努力を続けていくことを誓うものである。